

いわて農業農村 活性化推進ビジョン

～多様なスタイルでいきいきと暮らせる中山間地域の実現に向けて～

ポイント1

リーダーや組織など
“ひと”の活躍に向けて



ポイント2

地域の伝統や豊かな
自然を活かした魅力
ある農業・農村づくり
に向けて

ポイント3

都市農村交流人
口の拡大と移住・定
住の促進に向けて



岩手県農林水産部

いわて農業農村活性化推進ビジョンとは？

本県の中山間地域は、県土の8割を占め、農業生産はもとより、県土の保全等の多面的機能を有しています。しかしながら、平地地域に比べ人口減少の度合いが大きく、農業者の高齢化も進んでおり、今後、急激に地域活力が低下することが懸念されています。

このため、地域経済を支える農業を核として、地域住民が多様なスタイルでいきいきと暮らせる中山間地域の実現に向けた推進方向を示す「いわて農業農村活性化推進ビジョン」を、平成28年2月に策定しました。

この推進ビジョンに示した支援内容を、各種制度を活用しながら、実践していきます。

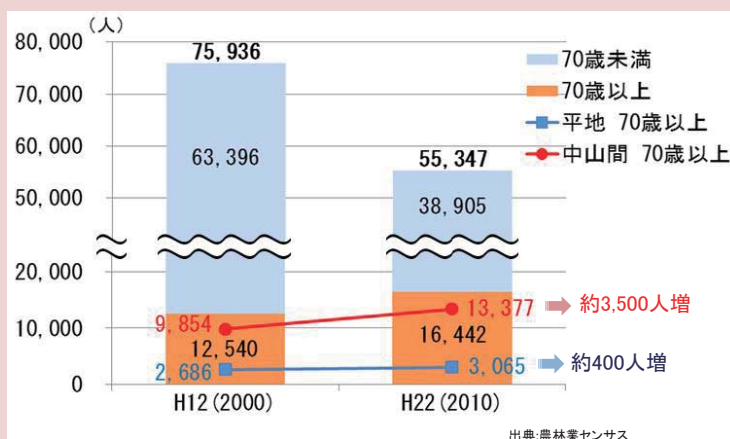
中山間地域の現状と課題

【現状】

- 平地地域に比べ、人口減少の度合いが大きく、農業者の高齢化も進んでおり、集落機能が低下し、農地等の維持や生産活動の継続が困難になることが懸念。
- 農業生産額が年々減少し、農地の8割を占め、農業者の8割が居住する中山間地域における農家所得が減少。
- 担い手へ農地利用集積を進める一方、出し手農家は、農業を通じた地域との関わりが希薄になり、人口流出に繋がる懸念。



【図1】岩手県の将来推計人口



【図2】岩手県の農業経営者数

【課題】

- 農業者の減少、高齢化が進んでいることから、次世代を担う新規就農者の確保や、地域活動をけん引するリーダーの育成が必要。
- 農業生産額が減少していることから、需要に即した産地づくりや6次産業化の取組により、農業者の所得向上と雇用創出等を通じた地域活性化を進める必要がある。
- 農山漁村の人口の社会減を緩和するため、移住・定住に向けた都市農村交流の取組を進めていく必要がある。

10年後を見据えた中山間地域活性化の基本目標（めざす姿）

『多様なスタイルでいきいきと暮らせる中山間地域の実現』

認定農業者など地域農業の担い手のほか、林業や水産業、製造業、サービス業などと兼業する農業者（半農半X）や、生きがい農業に従事する高齢者など、多様な農業者が参画しながら、いわての中山間地域ならではのストーリー性のある農産物の生産や加工品の製造・販売、農村体験や復興支援などの「つながり」による地域間や世代間の交流が行われるなど、中山間地域の人々が多様なスタイルでいきいきと暮らすことができる農村社会の実現をめざすもの。

推進ビジョンに示された、地域活性化に向けた10の推進項目

ポイント1：リーダーや組織など“ひと”の活躍に向けて

- ① 地域の特性や資源を活かした地域ビジョン作成や、活動をけん引する人材育成を支援
- ② ビジョンを実践する体制の整備や広域連携の取組を支援
- ③ 半農半Xなど多様な農業者による持続的な農業の実現と、就農支援体制の整備を支援
- ④ 地域独自の食文化や技術を伝承する後継者育成と、子どもと高齢者による世代間交流を支援

ポイント2：地域の伝統や豊かな自然を活かした魅力ある農業・農村づくりに向けて

- ⑤ 気象条件を活かした農林産物の生産、豊かな自然を売りにした米の生産等によるブランド化を促進
- ⑥ 若者や女性のアイデア、高齢者の経験などを活かした、その地域ならではの加工品製造を支援
また、生産者自らが農林産物を対面販売することで、安全・安心を求める顧客の確保を支援
- ⑦ 潤いと安らぎのある田園風景や自然環境を守り、継承するため、農地などの適切な保全管理を支援

ポイント3：都市農村交流人口の拡大と移住・定住の促進に向けて

- ⑧ 地域資源の再発見、農業体験やワーキングホリデー等について、ICT等を活用した情報発信を支援
- ⑨ 農業体験や教育旅行、外国人旅行客等の受入れ態勢の構築を促進
- ⑩ U・Iターンなど移住・定住を促進

推進ビジョンの実践に向けた主な取組 【いわて農山漁村コミュニティ活性化支援事業】

1 いわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業

中山間地域において、多様なスタイルでいきいきと暮らせる地域をめざし、地域のアイデアを活かした集落ぐるみで行う取組を支援。

2 都市農村交流人口の拡大に向けたグリーン・ツーリズム実践塾の開催

県内で先進的に取り組む実践団体と連携し、多様化するニーズに対応したグリーン・ツーリズム実践塾を開催し、受入れの中心となるプロ人材を育成。

3 地域のリーダー育成など“ひと”の育成

岩手大学で開講する「いわてアグリフロンティアスクール」において、地域活性化に向けた集落のリーダー育成研修を実施。

いわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業

～多様なスタイルでいきいきと暮らせる中山間地域の実現に向けて～

地域資源を活用した商品開発や、営農活動を継続するための集落間サポートの仕組みづくりなど、住民のアイデアを活かした地域活性化の取組を支援します！

支援内容

1 地域資源活用型

地域資源を活用した商品開発や試験販売、産直等で販売するための野菜苗・花苗・地野菜等の新品目試験栽培などを行うために必要な経費を支援。

対象経費の例

- (1) 商品開発のためのアドバイザー報償費・旅費・委託費
- (2) 製造のための設備導入、(3) 試作品製造経費
- (4) 販売先確保のためのアドバイザー報償費
- (5) 商品デザイン委託料、(6) 苗栽培用ハウス
- (7) 新品種導入試験用種子、(8) 連結ポット、ポリポット
- (9) 真空播種機、土粉碎機、(10) 試験販売員賃金 など

2 集落サポート型

地域の営農活動を継続するための作業受委託や集荷代行等のサポート体制づくりに必要な経費を支援。

対象経費の例

- (1) サポート体制づくりのための県外調査経費
- (2) PRチラシ作成
- (3) チラシ配布賃金
- (4) 農作業機械の移動などによるかかり増し経費
- (5) 作業員(オペレータ)賃金
- (6) 集荷のための燃料費、賃金など

3 交流活動型

農業のお試し体験や収穫祭などによる都市住民等との交流活動等を行うために必要な経費を支援。

対象経費の例

- (1) 収穫祭等の企画・運営打合せ経費
- (2) アドバイザー経費
- (3) 地域紹介パンフレットの作成
- (4) 収穫祭での食品販売資材費
- (5) 農業お試し体験受入資材(長靴、農機具等)
- (6) 郷土料理づくり体験のための資材(そばうち道具、食器等)
- (7) 案内板設置



★3つの型を組み合わせることも可能です

事業主体

中山間地域※1の住民団体※2

※1 中山間地域：

特定農山村法、山村振興法、過疎法の指定地域、及び中山間地域等直接支払制度の知事特認地域

※2 住民団体：

3戸以上で構成された構成員の2分の1以上が農業者である団体
(中山間地域等直接支払協定集落、多面的機能支払活動組織、農事組合法人、集落営農組織、町内会など)

補助率

1/2以内(市町村経由間接補助):補助上限750千円

採択基準

地域ビジョン※3を作成した集落

※3地域ビジョン：

集落単位で、地域住民が話し合いにより作成する、農業を核とした地域のめざす姿とその実現に向けた取組等の計画のこと。



事業実施までの流れ

【3月下旬まで】

- ・地域ビジョン策定
- ・実施計画書作成

【4月上旬】

- ・実施計画承認申請

【4月中～下旬】

- ・実施計画に係る有識者意見聴取

【5月上旬～】

- ・事業計画承認
- ・事業着手

地域ビジョン作成の意義

県内外における先進的な地域活性化の取組事例を調査したところ、地域資源を活かした農産物の生産、加工・販売や交流活動等の特色ある取組が行われており、優れたリーダーや組織の下で、「地域の将来像(地域ビジョン)が共有」され、地域のまとまりをもって、実現に至っている例が多く見られたことから、地域ビジョンを作成した集落を事業の採択基準としています。

【地域ビジョンに記載する内容(例)】

- 1 集落の状況(人口、世帯数、農地、集落の取組、地域資源等)
- 2 集落の強み・弱み
- 3 地域のめざす姿、集落の将来図
- 4 集落の課題(現状とめざす姿のギャップ)
- 5 集落の課題解決に向けた具体的な取組
- 6 集落の課題解決に向けた組織体制

地域ビジョンの作成で悩んだときには、県や市町村に相談を！

いわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業の取組事例

あす たか まつ かんが かい 明日の高松を考える会(花巻市)

地域資源活用型

【キーワード】

地域資源活用

都市農村交流

6次産業化

伝統文化継承

多様な人材

ブランド化

1 取組の概要

農業収入の減少や高齢者世帯の増加など、数多くの課題を抱える地域を活性化するために、遊休農地を活用して「高松福祉農園(野菜と山の果実)」を設置。地域のデイサービスや障がい者施設、保育園と共同で運営。

農園で収穫した農産物は、配食サービスや高齢者サロンの食材として活用するとともに、山の果実を活用した加工品を販売。また、これらの農産物や加工品は「ふるさと宅配便」として地元出身者に届けている。

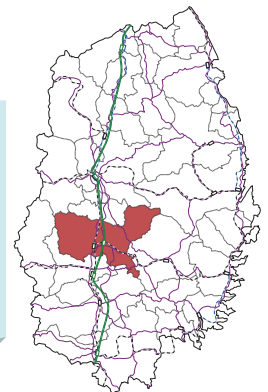
こうした取組の結果、Iターン等の移住があり、世帯数が増加したこの地域では、高齢者等の活動の場が確保されるなど「農業と福祉の連携」を通じ、地域の活力が高まりつつある。



世代間交流会



山の果実収穫祭
〈岩手県花巻市〉



2 将来に向けて

「みんなが主役、みんなで実践」を合言葉に、ほ場整備とあわせて新たな作目の導入や6次産業化による所得の向上と雇用の創出を進める。

また、暮らしを守る生活支援サービスや移住促進等を行う「地域運営組織」の設立を目指す。

事業費活用例

- ・ 地域の行動計画策定費
- ・ リーダー育成研修費
- ・ 統一ロゴデザイン作成費
- ・ 食の伝承収穫祭経費
- ・ 情報発信映像製作費 など

しも おお くわ しゅう らく

下大桑集落(一関市)

地域資源活用型

【キーワード】

地域資源活用

6次産業化

多様な人材

世代間交流

1 取組の概要

地域活性化に向けた世代間交流が活発で、稲作体験やサツマイモ収穫体験、七夕会など10年以上取り組んでいる。

稲作体験では、種まきから田植え、草刈り、収穫までを地域の子どもから大人まで約80名が参加し毎年実施している。稲作体験で収穫されたお米は、災害時の備えとして地域コミュニティセンターに保管し、炊き出し訓練の際に芋の子汁など季節の料理とともに地域へ提供している。

また、地元園児と地域住民がサツマイモやサトイモを栽培し、収穫時には焼きいもや芋の子汁に調理して振る舞われる。さらに、収穫したサツマイモは、集落の全世帯に提供されるほか、焼きいもにして産業まつり等で販売されている。



サツマイモ収穫体験



農業祭での焼きいも販売

〈岩手県一関市〉

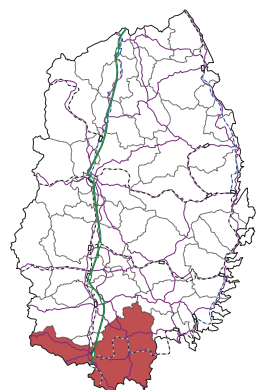
2 将来に向けて

地域で収穫した小麦を活用してパンの製造を試験的に進めるほか、産業まつりでの焼きいもの売り上げを伸ばすなど、地域の所得を向上したいと考えている。

また、後世に優良な農地を引き継ぐため、ほ場整備を導入し、生産性の高い農業の実現を目指している。

事業費活用例

- ・ 試作用パン材料費
- ・ パン加工アドバイザー経費
- ・ 芋焼き器購入費
- ・ 販売促進用品(はっぴ、旗) など



大沢農村振興会(洋野町)

交流活動型

【キーワード】

地域資源活用

都市農村交流

6次産業化

雇用の創出

1 取組の概要

地域の究極の目標は、「出稼ぎのないむらをつくること」であり、物心ともに豊かなむらの創造に向け、農産加工・体験交流施設の建設、地域外の地元出身者との交流、おおさわの賛歌(うた)の制作・放送などを行っている。

平成10年に地域の交流拠点である「アグリパークおおさわ」がオープンし、大沢農村振興会が管理運営を行っている。平成16年には指定管理者となり、地域としての雇用の場が創出されている。

現在では、春と秋に「久慈平岳登山会」、「感謝まつり」、夏の「ほたるまつり」、「星空観賞会」、「おおさわサマーフェスティバル」など、季節ごとに様々なイベントを開催し、年間約15万人が訪れている。

また、首都圏の地域づくり団体との都市農村交流活動に取り組んでいる。

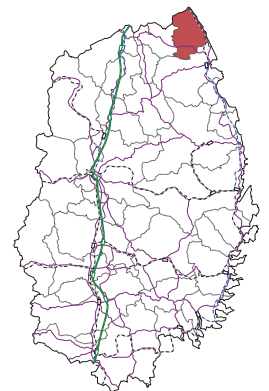


アグリパークおおさわ



そば打ち体験

〈岩手県洋野町〉



2 将来に向けて

農業・農村景観を含めた大沢地域全体がアグリパークとなるよう、理想の農村づくりを地域一体となって取り組んでいく。

“地域づくりの財産は、愛郷心を持った住民の意識を育むこと”の思いから、優れたリーダーを育成し、魅力的な企画・演出をもって過疎化の抑制を目指す。



事業費活用例

- ・ 交流イベント開催経費
- ・ 餅つき体験材料費
- ・ 冬季誘客用イルミネーション設置経費 など

瀬月内自治会(九戸村)

地域資源活用型、交流活動型

【キーワード】

地域資源活用

都市農村交流

伝統文化継承

多様な人材

世代間交流

広域化・連携

1 取組の概要

瀬月内地域は、地域活性化に向けた結束力が強く、自治会、農家組合、中山間直接支払集落、老人クラブ等が連携した取組が数多く行われている。

10月には自治会、中山間直接支払集落、老人クラブ、近隣の自治会が共同で、廃校を利用した「瀬月内川流域収穫祭」を開催し、農産物の販売やお振る舞いを行っており、村内外からの来場者も多い。

6次産業化の取組としては、農家組合と自治会が合同で産地直売所を運営する先進地を視察し、経営や販売手法に係る知識の習得を行うほか、共同加工施設を利用した豆腐や味噌の試作を行っている。

また、8月に「夏まつり」を開催し、帰省した親戚を交え、子どもから高齢者まで楽しめるよう、盆踊り、ゲーム等を行い、世代間交流の場を設けている。さらに、本地域は九戸村の玄関口でもあることから、集落の環境美化のため子どもから高齢者までが参加して花壇を管理している。

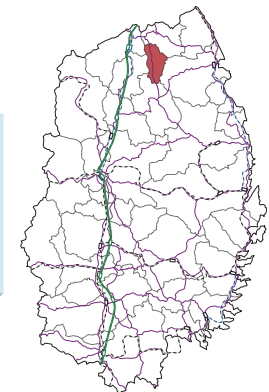


神楽の伝承



収穫祭での餅まき

〈岩手県九戸村〉



2 将来に向けて

高齢者でも農作業ができるよう、地域の体制を整備し、遊休農地の解消を目指す。併せて、農産物加工の技術習得・伝承を行い、農産物の加工品等を産地直売所や収穫祭等で販売することで、高齢者が活躍できる場の創出を目指していく。



事業費活用例

- ・ 収穫祭運営費
- ・ 産直運営視察経費
- ・ 加工施設機械器具購入費
- ・ 花壇整備、花苗費 など

中山間地域活性化に取り組む先進事例

なるせ 鳴瀬振興組合(奥州市江刺区)

中山間地域等直接支払制度の協定を1集落としていたが、取組充実と事務軽減のため19集落が統合。

小規模協定では困難だった「米里産直」の開設や加工グループの結成などにより、加工品の製造・販売を実施。

首都圏在住の集落出身者に農産物を直送する「ふるさと宅急便」を開始するなど所得向上を実現。

さらには、この地域で生産される米の食味値が高いことを活かし「江刺清流米」として販売。

【平成27年度豊かなむらづくり全国表彰事業農林水産大臣賞】

まちい (農)町井アグリフレンド・ファーム(花巻市東和町)

基盤整備を契機に集落営農による地域農業をめざし、平成27年に農事組合法人「町井アグリフレンド・ファーム」を設立。

地場産米を使用した米粉パンやピザ生地を製造し、産直施設や保育園等で販売するなど、6次産業化の取組により、農産物の高付加価値化を推進。

整備された水田を活用し、田植えや稲刈りなど農業体験学習を行う中高生を受け入れ、都市農村の交流を積極的に推進。

農村活性化施設を活用し、地域で収穫した米や大豆を使用し「パンづくり教室」や「味噌づくり教室」を開催するなど女性の活躍の場を提供し、地域活性化の取組を展開。

【平成26年度農業農村整備事業優良地区コンクール農林水産大臣賞】

あやおり夢を咲かせる女性の会(遠野市)

ほ場整備事業導入に当たり、女性の意見を反映させたいと地域で話し合い、全国初の「田んぼの中の公衆トイレ」設置が実現。

これを契機に平成6年「あやおり夢を咲かせる女性の会」を結成。

平成10年に農家レストラン「夢咲き茶屋」を開店し、郷土料理の販売と併せ、地域の食文化を発信。平成24年には、2号店「結和」を開店。

また、平成24年に、地域の食文化や高齢者の暮らしの知恵を伝え残すため「あやおり食暦」を作成し、地域全戸に配布。

【平成15年度地域づくり表彰全国地域づくり推進協議会会長賞】



加工グループによる商品検討会



量販店での餅つき実演



米粉パンづくり教室



中高生の農業体験学習



公衆トイレの管理作業



夢咲き茶屋 スタッフ

問い合わせ先

岩手県農林水産部農村計画課 (活性化推進ビジョン担当) 電話 019-629-5666

” 農業振興課 (いきいき暮らし活動支援担当) 電話 019-629-5647

各広域振興局農政部、農林振興センター等

いわて農業農村活性化推進ビジョンは岩手県公式ホームページで!

いわて農業農村活性化推進ビジョン

